

中央区自治協議会委員 各位

中央区役所総務課長  
(担当 総務・安心安全グループ)

新型コロナウイルス感染症にかかる活動助成金制度の変更・  
地域での防災訓練などについて

標記について、別紙のとおりご報告いたします。併せて選出母体等にお伝えくださいますようお願いいたします。

記

- 「自主防災組織活動助成の見直しについて」 **【別紙1】**
  - ・・・今回の活動助成金制度変更の概要です。上限額や推奨訓練に変更があります。助成額の計算方法も変更となりますので、金額について確認されたい場合は中央区総務課までご相談ください。
  
- 「(参考) 新型コロナウイルス感染症対策を踏まえた防災訓練の注意点について」 **【別紙2】**
  - ・・・新型コロナ対策を踏まえて防災訓練をする際の注意点をまとめた資料です。
  
- 「新型コロナウイルス感染症対策に配慮した避難所開設・運営訓練ガイドライン(概要)」 **【別紙3】**
  - ・・・新型コロナ対策を踏まえた避難所訓練をする際はこちらをご覧ください。

**【ホームページ掲載場所】**

トップページ⇒暮らし・手続き⇒防災・災害⇒区の防災情報⇒中央区の防災情報  
⇒各種申請書ダウンロード

**【問合せ先】**

中央区役所総務課総務・安心安全グループ  
担 当：佐藤・水田  
電 話：025-223-7064 (直通)  
F A X：025-224-1520

## 自主防災組織活動助成の見直しについて

### 1. 見直しの考え方(防災訓練の実施促進と新型コロナウイルス感染症拡大防止の両立)

- (1) 新型コロナウイルスの感染防止のため、地域における多くの防災訓練が中止や規模を縮小せざるを得ない状況となっていますが、地域の防災力の維持・向上のため、防災訓練の実施は重要です。
- (2) 新型コロナウイルスにも対応しながら、防災訓練の実施を促進するため、次の 2 つの観点から自主防災組織活動助成を見直します。
  - ① 防災訓練の参加者への感染防止対策の実施
  - ② 災害発生時に効果的に感染防止対策を行うための訓練の実施

### 2. 見直しの内容(補助額の拡充等)

- (1) 防災訓練の参加者への感染防止対策
  - ① 3密を避けるため、訓練参加者を少数(5~19人)に絞った訓練についても新たに助成の対象とし、5,000円を限度として補助金を交付します。  
ただし、下記(2)の「新型コロナウイルス感染症対策に配慮した避難所運営訓練」の実施を要件とします。
  - ② 同一の訓練を複数日に分けて開催する場合は、それぞれの参加者数を合計した参加人数で助成金を算定するとともに、補助額を5,000円増額します。  
(注) 同一人物が複数会期に参加した場合は、1度限りの算定となります。
- (2) 推奨訓練の新設(新型コロナウイルス感染症対策に配慮した避難所運営訓練)
  - ① 推奨訓練として「新型コロナウイルス感染症対策に配慮した避難所運営訓練」を新設し、補助額を10,000円上乘せします。
  - ② 訓練を実施する際に必要となる消毒液やフェイスシールドなどの購入経費についても、助成対象とします。  
(注) マスクは、参加者が用意することが原則ですが、運営上必要なものは対象とします。
- (3) 助成率の引き上げ  
助成金の交付額を、必要経費の4分の3から全額に増額します。
- (4) 見直し後の活動助成金の適用期間  
令和2年8月1日から令和3年3月31日まで  
(注) 助成金の増額は令和2年4月1日以降実施の訓練に遡って適用します。

## ① 訓練参加人員数による助成限度額

防災訓練 参加人員数	助成限度額	
	1日で開催した場合	複数日に分けて訓練を 実施した場合
5人～19人	5,000円	10,000円
20人～29人	10,000円	15,000円
30人～300人	20,000円	25,000円
301人～500人	25,000円	30,000円
501人以上	30,000円	35,000円

### 備考

- 1 複数の自治会・町内会で構成される自主防災組織の助成限度額は、構成自治会・町内会ごとの訓練参加人員数に基づき算定した助成金額の合計額又は訓練参加人員数の総数で算定した助成額のいずれかとする。
- 2 参加人員数**5人～19人**の場合は、新型コロナウイルス感染症対策を踏まえた避難所運営訓練を行うことを交付の要件とする。
- 3 訓練を複数日に分けて分散実施した場合は、助成限度額を5,000円増額する。  
なお、分散実施した回数ごとに5,000円増額されるものではありません。

## ② 推奨訓練加算額

推奨訓練メニュー（全6種）		加算額
既存	避難所運営訓練	5,000円※1
	学校連携訓練	
	避難行動要支援者訓練	
	自主防災組織実行力向上訓練	
	初動対応力向上訓練	
新設	<b>新型コロナウイルス感染症対策を踏まえた避難所運営訓練</b>	<b>別途10,000円上乗せ※2</b>

※1 既存の推奨訓練を2つ以上実施した場合でも加算上限額は5,000円

※2 新設の訓練は既存の推奨訓練の実施の有無に関わらず、10,000円を上乗せ

## 新型コロナウイルス感染症対策を踏まえた避難所運営訓練

災害が発生した際に、新型コロナウイルス感染症を踏まえた避難所運営ができることを目的として、避難所の開設から運営まで必要な知識習得が行われる訓練を対象とし、既存の推奨訓練の実施の有無に関わらず、10,000円を上乗せします。

### 【交付の基準】

以下の10訓練11項目中、必須4項目を含めた6項目以上実施

#### ◎必須訓練（3訓練）

##### ① 避難者受入訓練

- 密にならない受入手順を確認し、避難所入口や受付を設置する。
- 避難者カードを記入し、避難者名簿の作成、参加者の体温・体調や感染症対策を確認する。

##### ② 避難所割振訓練

- 一般の避難スペース、専用スペース等を確認する。

##### ③ 保健・衛生・救護訓練

- 濃厚接触者等が来所した場合や避難者の中から症状のある者が発生した場合の対応及び専用スペースへの受け入れ方法等を確認する。

##### ④ 避難所開設訓練

- 避難所運営スタッフの装備品（マスク、ゴム手袋等）の着脱手順を確認する。

##### ⑤ 情報受発信訓練

- 感染防止に関する情報の共有及び感染症対策を確認する。

##### ⑥ 物資受入・配布訓練

- 避難所の備蓄物資の現状及び配布方法を確認する。

##### ⑦ 食料配布・炊き出し訓練

- 炊き出し時の感染防止対策を確認する。

##### ⑧ 施設環境整備訓練

- 避難所の定期的な換気及び共用箇所を消毒する。

##### ⑨ 生活ルール策定訓練

- 新型コロナウイルス感染症対策を踏まえた避難所での生活ルールの策定・周知を行う。

##### ⑩ 車両避難者への対応訓練

（大規模な駐車場を有するなど、あらかじめ車での避難を想定、周知している場合のみ）

- 車両避難者の受付方法や駐車位置を検討する。

## (参考) 新型コロナウイルス感染症対策を踏まえた防災訓練の注意点について

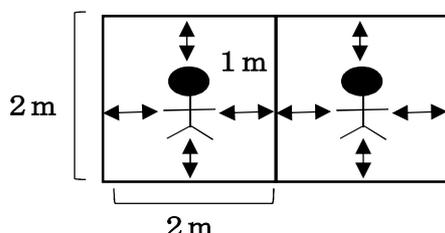
地域での防災訓練を実施するにあたり、注意すべき具体的な点を「新しい生活様式」などを参考に中央区総務課で独自にまとめました。ただし、完全に感染リスクがなくなるものではありませんので、こちらを参考に各防災会でも感染防止に努めて下さい。また、訓練開催の判断については、感染状況により各防災会で行うようお願いいたします。

### 参加人数について

- 学校の体育館で実施する場合、参加者が十分な間隔（できれば2m）を確保できる人員とすることから、多くても200人以下※を目安とする。

※ 新潟市内の学校の体育館の面積が概ね800㎡前後であること、1人あたりの占有面積を4㎡とすると、 $800\text{㎡}/4\text{㎡}=200$ 人となることから算定したものです。

ただし、体育館の大きさ、換気、訓練内容等により柔軟に対応するよう注意してください。



- その他の施設であれば、十分な間隔を確保できるだけの人数に限ること。

### 訓練計画について

- 事前の打ち合わせでも3密を避け、短時間で行うこと。
- 少人数、屋外、3密を避けた訓練も検討する。

### 訓練実施前について

訓練前に、訓練参加者に対し以下の内容を（回覧板等を活用し）周知しておきましょう。

- 訓練参加時はマスクを着用すること。
- 訓練当日の朝、体温測定と健康チェックを行うこと。
- 避難者カードを記入するための筆記用具を当日持参すること。
- 発熱や風邪の症状があるときは訓練の参加を控えること。

### 受付について

- 各自治会等が一度に集まらないよう受付時間を調整すること。
- 訓練参加者全員に避難者カードの提出もしくは、参加者名簿への記入を徹底すること。（避難者カードを事前に配布し記入してきてもらうと密を避けることができる。）
- 受付には非接触型体温計や消毒液を準備しておくこと。

## 開会式、閉会式について

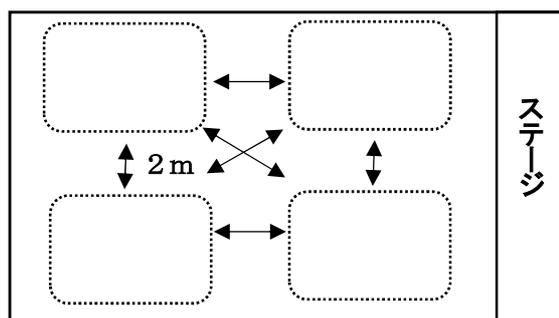
- 各自治会等の並び間隔は概ね2mを確保するように努めること。
- 各参加者同士の前後の間隔も十分な距離を確保すること。
- 挨拶等はできるだけ短くし、短時間で終了するよう努めること。
- マイクや拡声器を活用し、大声でのあいさつは避けること。

## 個別訓練について

AED、応急担架、消火器等の取り扱い訓練や、段ボールベット、パーテーション、簡易トイレ等の資機材取り扱い訓練を屋内で行う場合は、以下のことを考慮し実施してください。

- 訓練会場の大きさや参加人員を考慮し、訓練内容を絞り込むこと。
- 各訓練場所はセーフティーコーン等で明示するとともに十分な間隔を確保するよう努める。
- 訓練会場内の窓等は開放するか、こまめな換気を心掛けて訓練を実施すること。
- 各訓練参加者をできるだけ少人数のグループ分けとすること。
- 訓練実施グループ以外のグループは、密にならないよう心掛けて見学すること。
- 訓練実施者は訓練前後に手洗いや消毒を徹底し、特に訓練後は顔等には触れないこと。
- 指導する際はマイク・拡声器を活用し、努めて大きな声を出しての指導は避けること。
- 使用する資機材はこまめに消毒すること。

【参考例】



※ 各訓練スペースの間隔は2mを確保し、スペース内も密にならないよう努めること。

## 炊き出し訓練について

- 調理場所等は事前に消毒し衛生管理に努めること。
- 調理実施者はマスク、手袋を必ず着けること。
- 調理中はできるだけ話をしないこと。
- 出来上がったアルファ化米を個別包装した後は、各配布先ごとに段ボール箱等に入れて保管するなど、衛生対策を徹底すること。
- 出来上がったアルファ化米はその場では食べないで、自宅へ持ち帰ること。
- 各自治会等への配布は、各自治会等から取りに来るようにすること。
- 個人に渡す場合は、直接手渡しせず、相手に持って行ってもらうこと。

### **訓練終了後の帰宅について**

- 訓練終了後は一斉に帰宅するのではなく、密にならないよう順番を指定し帰宅させること。
- 啓発品など渡す場合は、直接手渡しせず、机の上に置くなどして相手に取ってもらうこと。

### **その他**

- 従来の訓練だけでなく「新型コロナウイルス感染症対策に配慮した避難所開設・運営訓練」を実施するなど、新たな自主防災訓練の取り組みも検討すること。

## 新型コロナウイルス感染症対策に配慮した 避難所開設・運営訓練ガイドライン（概要）

「新型コロナウイルス感染症対策に配慮した避難所開設・運営訓練」を実施し、災害時に安心して避難できる環境を整えておきましょう。

本ガイドラインを参考に、各自主防災会等の実情に応じて訓練を実施していただきますようお願いいたします。

なお、ここに挙げた実践例は、あくまで一例です。さらに進んだ実践項目などについては、4ページの参考資料を参照してください。

### 避難者受入訓練

□密にならない受入手順を確認し、避難所入口や受付を設置する。

〈実践例〉

- ・密にならないような目印・案内等の設置場所や受付手順を確認する。
- ・設置した受付へ避難者を誘導する。

□避難者カードを記入し、避難者名簿の作成、参加者の体温・体調や感染症対策を確認する。

〈実践例〉

- ・受付時に発熱、咳などの症状の有無等参加者の体温・体調確認を行う。
- ・施設入場時に拡声器等を活用し、避難所における注意点や発熱、咳などの症状がある人は申し出るよう参加者へ呼びかける。
- ・発災時の非常持ち出し品（マスク、消毒液、ウェットティッシュ、体温計等）の持参を呼びかける。（訓練お知らせ時、訓練終了時など）

### 避難所割振訓練

□一般の避難スペース、専用スペース等を確認する。

※専用スペース：発熱や咳等の症状がある方や濃厚接触者を受け入れるスペース

〈実践例〉

- ・共同空間を設定・確認し、密にならないよう生活ルールの策定等工夫する。  
 ※共同空間：受付、掲示板、物資保管場所、手洗い場、トイレ、更衣室（男女別）、洗濯場・物干し場、ゴミ置き場（箱）等
- ・養生テープなどを用いて、通路を確保しながら、避難スペースの範囲を明示する。
- ・通路は、一方通行とするなど、できる限り通行者がすれ違わないよう確保する。
- ・共同空間や、避難スペースをゾーニングし、確認する。
- ・パーティションと簡易ベッド（ダンボールベッド等）を設置する。
- ・避難者が自ら移動できるよう、案内看板等を用意する。
- ・どこにどの避難者、特に要配慮者がいるのか等について確認し、見取図や一覧図を

作成する。

### 保健・衛生・救護訓練

□定期的な巡回、避難者の毎日の体温・体調を確認する。

〈実践例〉

・避難所の巡回体制や確認方法を確認する。

□濃厚接触者等が来所した場合や避難者の中から症状のある者が発生した場合の対応及び専用スペースへの受け入れ方法等を確認する。

〈実践例〉

・訓練参加者の中に発熱者や濃厚接触者役を設定し、専用スペースに誘導する。

・専用スペースの避難者の見守り、食事、物資の供給方法等の検討を行う。

・体調急変時や感染が疑われる場合の連絡・相談手順を確認する。

### 避難所開設訓練

□避難所運営スタッフの装備品(マスク、ゴム手袋等)の着脱手順を確認する。

〈実践例〉

① 手指の消毒、マスクを着用する。

② 手袋を装着する。手袋をした手で顔を触らないように注意する。

③ 片方の手袋を脱ぎ、手袋の内側部分でもう片方の手袋を脱ぐ。

④ 手指の消毒を行い、マスクのゴム部分を持ってマスクを外す。

⑤ 感染性廃棄物入れに距離を保って捨てる。

□避難所運営スタッフの健康管理

〈実践例〉

・避難所運営スタッフ全員の体温や体調の確認を毎日行う。

### 情報受発信訓練

□感染症の防止に関する情報の共有及び感染症対策を確認する。

〈実践例〉

・掲示物をできるだけ複数箇所の見やすい位置に貼り出し、情報の共有及び感染症対策を徹底する。

・参加者へマスク着用・せきエチケット、手指消毒の徹底を呼び掛ける。

・発災時の非常持ち出し品(マスク、消毒液、ウェットティッシュ、体温計等)の持参を呼びかける。

・発熱や咳等の症状がある人、濃厚接触者への偏見、嫌悪、差別などが生じないように避難者どうし配慮した行動をとるよう促す。

## 物資受入・配付訓練

□避難所の備蓄物資の現状及び配布方法を確認する。

〈実践例〉

- ・備蓄物資の数量、保管状況を確認する。
- ・救援物資の受入れから保管場所、配布場所までの搬送・保管手順の確認を行う。
- ・養生テープで印をつけるなど一定の距離を保ちながら物資を配布できるような方法を確認・検証する。

## 食料配付・炊き出し訓練

□配食方法を検討・確認する。

〈実践例〉

- ・食料を個別配布するか取りに来てもらうか検討・確認する。

□炊き出し時の感染防止対策を確認する。

〈実践例〉

- ・調理スタッフの装備品、調理器具の消毒、使い捨て容器の利用
- ・順番制にするなど配食時の密を避けた配食手順を検討・確認する。
- ・一人分ずつ小分けにして配食する。
- ・食べ残しや使い捨て容器の回収手順を確認する。
- ・発熱者、濃厚接触者の容器については、一般の廃棄物と分けて取り扱う。

## 施設環境整備訓練

□避難所の定期的な換気及び共用箇所を消毒する。

〈実践例〉

- ・避難所の定期的な換気を行う。
- ・重点的に消毒するところ(ドアノブ・手すり、蛇口等の共有部分など)を設定し、消毒する。
- ・廃棄物保管場所の検討を行う。

## 生活ルール策定訓練

□新型コロナウイルス感染症対策を踏まえた避難所での生活ルールの策定・周知を行う。

〈実践例〉

- ・避難所での生活ルールや役割分担等の策定・周知を行う。
- ・避難所内の状況の変化や、新しい知見、情報を取り入れ、常に更新を検討する。

## 車両避難者への対応訓練

(大規模な駐車場を有するなど、あらかじめ車での避難を想定、周知している場合のみ)

□車両避難者の受付方法や駐車位置を検討する。

〈実践例〉

- ・避難所への入居者とは受付を分けるなど受付方法を検討し、設置する。
- ・車と車の間のスペースを十分にとるよう案内する。

### 【参考資料】

- ・新型コロナウイルス感染症対策に配慮した避難所開設・運営訓練ガイドライン  
(令和2年6月8日付 内閣府(防災)・消防庁・厚生労働省連名通知)
- ・避難所運営マニュアル  
(新型コロナウイルス等の感染症対策編 令和2年6月1日暫定版 新潟市)
- ・新潟市地域活動ガイドライン(令和2年6月1日付 新潟市)
- ・新潟市チラシ「考えてみよう『命を守る避難行動』」(令和2年7月作成)